災害復興支援について議論する菅波代表（左端）やレイテ島の医師（左から4人目）たち

国越え災害復興を

福山 比台風の被災地報告

国境を越えた災害復興支援の在り方を考えるフォーラムが26日、福山市霞町のまなびの館ローズコムであった。市医師会と国際医療支援のNPO法人AMDA（岡山市北区）が主催し、看護専門学校の学生や市民計約80人が参加した。

昨秋に甚大な台風被害に遭った福山市親善友好都市のフィリピン・タクロバン市があるレイテ島の医師2人が被災地の現状を報告。「医療従事者も被災して人材不足に陥った。AMDAや市医師会からの迅速な支援は助かった」と感謝した。

フィリピンへの支援を続けている市医師会やボランティアグループなど6団体が、南海トラフ巨大地震に備えて支援に必要な点を提言した。「細やかなニーズを把握するために、通訳体制の充実が欠かせない」「日本の看護師が海外支援に参加して、水や薬がない過酷な状況を経験する機会を増やすべきだ」との声が出た。

AMDAの菅波茂代表（67）は「医師会や民間団体が国を越えて日頃の交流を重ね、信頼と尊敬の関係を築くことが大切」と呼び掛けた。

（久保友美恵）